

メトロウェザーとNTTコミュニケーションズが風況データ提供事業において提携、安全・確実なドローン運航等に不可欠な風況データ提供に向けた連携をスタート



京都大学発スタートアップのメトロウェザー株式会社（本社：京都府宇治市、代表取締役CEO：東邦昭、以下、「メトロウェザー」という。）は、高精度風況観測を提供する超高分解能ドップラー・ライダー※1を国内に展開し、風況の実況・予測情報を提供する事業において、NTTコミュニケーションズ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：庄司 哲也、以下、「NTT Com」）と業務提携契約を締結いたしました。

これによりメトロウェザーは、NTT Comが所有する通信用鉄塔等へのドップラー・ライダー設置や、NTT Comが強みを持つクラウド・コンピューティングやデータ配信などのIT技術の活用を通じて、メトロウェザーが生成した高精度な風況情報を安全なドローン運航等に役立てるシステムを構築します。

ドローン技術の急速な発展に伴い、インフラ点検・メンテナンス、物流等の幅広い分野にドローンの活用が注目されています。一方、ドローンが飛行する地上付近の風は乱れが多く大小様々な乱流が形成されているとされ、安全なドローン運航にとってその乱流は致命的なリスクとなります。これから急速にドローン市場が拡大していく中で、運航ルートにおけるリアルタイムな風況情報の把握は必要不可欠であり、そのためのシステム構築が急務となっています。

NTT Comが保有している通信用鉄塔や局舎は、全国的に数多く存在しており、また地上から離れた高い場所となっているため、ドップラー・ライダーの設置に適しています。メトロウェザーの開発した、離れた地点の風況を3次元的に測定できる超高分解能なドップラー・ライダーをNTT Comの通信用鉄塔や局舎に設置していくことで、3次元の風の実況データを得ることができるようになります。

本事業提携では、両社が連携することで「解像度の細かい風況の実測・予測情報」をお客様に提供するシステムが構築できます。こうした過去に類を見ない詳細な風況情報は、ドローンが自律飛行する際に突風やビル風などによる落下事故を防ぐための、安全・確実な運行に必須な屋台骨のデータとなります。さらに、メトロウェザーのもう一つのコア技術であるビル解像数値予報モデルによって、リアルタイムな実況だけでなく、風況の変化を予測することも可能になり、ドローン運航の飛躍的な安全性向上が期待できます。

※1 ドップラー・ライダー：大気中にレーザ光を発射し、大気中のエアロゾル（塵、微粒子）からの反射光を受信することによって、風速・風向を観測することができる大気計測装置。

■メトロウェザー株式会社について

設立年月：2015年5月13日

所在地：京都府宇治市大久保町西ノ端1-25 宇治ベンチャー企業育成工場6号

代表者：代表取締役CEO 東 邦昭

資本金：140,290千円（資本準備金含まず）

事業内容：リモートセンシング技術を応用した大気計測装置の開発・製作・販売
気象情報とIoTを組み合わせたマーケティングおよびソリューションの提供
気象観測および予測データ、防災オペレーション支援情報の提供

HP：<https://www.metroweather.jp>

■NTTコミュニケーションズ株式会社について

HP：<https://www.ntt.com/>

■問い合わせ先

メトロウェザー株式会社

東 邦昭：pr@metroweather.jp